



入強

三  
中  
淡  
清  
涼  
室  
藏  
山  
緣

不  
出  
三  
中  
淡  
清  
涼  
室  
藏  
山  
緣



13  
1626  
4









特 へ 18  
1626  
4

小夜尾巻之才八

才七二 夜盜採之事

才七三 鑿物具

才七四 馬拵之車

才七八 三帝諸軍より御對面之車

才七八 軍勢賊之車

小夜尾巻之才八

才七二 夜盜採

才七三 鑿物具

才七四 馬拵之車

才七八 三帝諸軍より御對面之車

才七八 軍勢賊之車

緑山

小夜尾巻之才八  
才七二 夜盜採之事  
才七三 鑿物具  
才七四 馬拵之車  
才七八 三帝諸軍より御對面之車  
才七八 軍勢賊之車

小夜尾巻之才八

三





小夜上風云一十八



小夜上風云一十八



浮國より一もの兵を命津乃もて今も大國  
は廣瀬のくまの丹波よ山内を更柳子丸國海乃  
下大原平六のりくもをれさるうせん津州防州  
馬由よ之巻の多んげのたあ海人あつ次命津此  
くみうたうらの兵たあつこあまれじら八後  
の津島相模國の乃八道にまわつたより越  
中にふとびやうん等ら次命割内越後津にのり  
これ瑞系うとこのの法兼くうこれ正田國わく  
一の孫平が契國ふと熊坂の長平のりまて小  
大とらうどめくのさるれ造人一と七百八十餘  
人時成うつさひあつとありとれらら右之色

かりせばさう海にわと人あまこのなつらわく海さう  
の長平と主生乃小後をこあつとけるはそれをや  
とれに事なれぬとく高魔王又乃宝亮くあつて  
の壁とかりこさきりやがりどとくのぬうをわえ  
おく系事と屋とくゆそれのゆあつこげぬとこ  
ろへあつてもかひあまれ仕ゆ比獄のなき蓋六  
一のらりて美いとて色二十人三十人わすてくせん  
まよららひあつやくとらこ所せんおあやま  
うらんやゆがたさるよのたつて鬼乃移うの色  
さめりあつてあまれ仕換とてらいつて  
さうのりくかたあつとれはさう時分とこ

八代

四







一。や雷電よみ出ま。我とくけしやあひ人の  
 一。は涼乃頼光。河野政法。西八郎。乃朝成。衣冠者  
 政義。十郎。是人の家。とんぶ。の悪律。歩二位  
 のとうび。せん。然登守の。神尾法守。清定。越中  
 の系司。もりや。伊乃。ま。金平。あ。ぶ。の重忠  
 畠山。六郎。和田。う。盛。その子。小林。の。あ。つ。あ。馬田。乃  
 与市。の。も。河津。の。え。ま。この。又。え。あ。ん。の。口。而  
 め。け。を。え。え。九。く。飯。り。丸。為。祇。乃。入。而。附。宗。新。中  
 納。ま。う。り。り。り。河。條。乃。は。而。さ。れ。ま。す。然。若。次。え。か。成  
 一。の。依。者。忠。伝。の。この。十。郎。涼。八。番。む。り。け。を。法。く  
 井。れ。を。う。め。一。来。法。師。の。い。ざ。ん。南。谷。乃。寛。心。坊。

うんぜん。い。れ。の。この。坊。さ。く。く。志。由。乃。悪。鬼。坊。の。この。坊  
 海。乃。龜。井。片。思。伊。治。後。河。成。亮。坊。并。交。かん。ぞ。く  
 い。か。人。尚。千。乃。大。力。口。達。し。と。あ。い。り。割。乃。あ。入。子。八  
 而。余。人。その。か。と。か。い。系。も。の。か。我。の。涼。亮。あ。う。り。ら  
 の。大。判。あ。ぶ。う。り。乃。万。教。矢。初。の。あ。い。り。貞。弁。れ。も。こ  
 ら。い。尚。資。乃。の。く。ぐ。り。を。田。ぐ。らん。竹。大。ひ。け。坂。田。れ  
 入。道。乃。由。き。し。り。の。い。の。國。同。八。代。の。教。四。の。い。り。が。あ  
 ま。の。ら。も。と。而。新。法。伝。を。乃。方。乃。禪。門。い。が。り。の。清  
 藤。戸。の。乃。由。つ。と。野。の。取。羅。を。更。を。り。や。其。堅。依。後  
 の。義。澤。せん。い。ざ。ん。り。の。あ。う。り。あ。う。り。清。の。清。乃  
 皇。存。乃。新。教。智。山。乃。乃。勅。喜。か。ゆ。く。ら。れ。る。機。院

一。夜。嵐。夫。の。



らんぐうのふいふかぢくはぢれ大杖うぐいぬれを  
夏古傳つて大畏こぶくらとこれうして大カ物てこ  
りあせのみちとまびえとてしそめて雷電  
の世小悲びゆこ然故小六小様どりぐり宛竟  
の盗人さ四かへけく雷電のわらわれ跡迄の  
きんことあされきあんのぐく東よはらうて  
一びく松乃くげよ鬼はまらむ物候とふらあり  
ういしそとかりひま生れ小ごりぐえりの悪人  
睡眠心魂ともあううんしふ術と受取しなけ  
くけま今もぞ林よあまわりの縁ごとく  
らそふやうにものつて鬼ぞう入跡ありう

されぬぬうつびこめく花とますせそまらば  
まこ正南よあつて二所をわらうこそ心ひ  
竹のあふこつて鬼ぞいの志あまらこれと  
あもらうまごまひつあふ心魂を極の術と  
こまへりてあほもあつて極をせりわニケ処あ  
よふたがひあまこあつて時をそよまれといふ  
後よ一万余人乃大カ物あつて八丈比獄乃あ  
のあつて二百二十六七とひらものこひぬと  
らり雷ぞんの神道といあふいふあふあつて  
ふ心障竜寺乃跡のあありまらびもてこ  
ふ心づららよひらうはあふひら心極

夏古傳つて大畏こぶくらとこれうして大カ物てこ







これと相見。傍竜さり。東の山麓。二万の穴。穴  
 産んで。何とことん。汗をかき。いよいよ。あつと。はくし。  
 いよいよ。いそいで。うらふ。ふと。梵天帝。教。四。天。  
 まとら。め。あ。て。ま。け。り。す。天。日。四。神。守。ま。か。  
 き。は。お。ら。ひ。ぬ。の。冥。途。か。り。し。あ。い。ご。の。編。み。の。め。  
 神の守護。の。に。佛。の。名。利。の。東。方。ふ。ぢ。ご。ん。せ。西。  
 方。ふ。え。い。く。南。方。ふ。き。ん。ご。り。や。や。お。方。ふ。え。ご。  
 座。し。や。中。央。ふ。大。日。大。聖。木。動。明。王。の。利。銀。の。光。  
 と。う。け。火。端。と。く。り。い。ぬ。へ。く。ら。あ。り。と。と。と。  
 う。ら。け。り。か。が。ぶ。ふ。ま。の。り。や。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。  
 ま。金。貴。相。ま。し。う。ら。あ。り。ま。ち。較。り。の。信。と。量。と。

あわ。地。と。人。と。ふ。ね。と。り。ぬ。い。か。り。あ。り。

才九二 磁物具

大。お。軍。又。集。會。あ。り。い。そ。ご。ま。り。の。と。が。ら。い。ん。ん。  
 の。詮。を。な。り。その。い。れ。ま。ご。ま。り。の。は。か。の。頼。光。と。伏。  
 御。と。系。その。い。よ。あ。け。り。ま。ご。ま。り。の。は。か。の。頼。光。と。伏。  
 と。と。を。い。い。ご。ま。り。の。は。か。の。頼。光。と。伏。  
 い。今。遠。い。あ。れ。そ。も。あ。か。ら。れ。も。ら。い。ぬ。ゆ。は。  
 も。見。よ。と。を。い。い。ご。ま。り。の。は。か。の。頼。光。と。伏。  
 と。ふ。も。ら。い。い。ご。ま。り。の。は。か。の。頼。光。と。伏。  
 ひ。ら。ご。ま。り。の。は。か。の。頼。光。と。伏。  
 ま。が。ふ。の。あ。い。の。ひ。あ。り。ま。ご。ま。り。の。は。か。の。頼。光。と。伏。

小夜嵐巻第五







男のこも肝要なれ孫ぐもくハ難矣すむおとこを  
かりまきみちさうせささこののたわこれかどか  
らこいくのりめは何事とせさみんさうも教万金あ  
らふもさ一日二日つらふいでらぬぞ。いんた  
いさやせりさうさう。法細くうんれさうもさ  
ふとけらり置てかや。引とけり矢とてた  
刀さしとささ。さやと。港乃あけづり長刀  
こんぶやとわり柄とまじ。さうとわひ。わらとわ  
くらなうわらうさひら。汗とがぐいあつとけ  
く。敷と日よつらくるをぞねよ。敷日三日さ  
らふ。さ刀さうを捨なむさうさうのささひ置り

か徳乃ささりいのささいさうもたははさ  
神変りさうさわせめくさうの中よ。さやこ  
目系乃坊つよ。赤井刑アち文とつよのありその  
子よ龜菊丸と。十に八かたつらさう。ささ  
足乃手傳しとわらけら父よさひけら  
さささうさうさうさうさうさうさうさう  
わら。あやさうさうさうさうさうさうさう  
退治乃さあまんらさうさうさうさうさう  
ゆふの子やさうさあさうさうさうさうさう  
さうさう。白布あさう。服とさうさうさうさう  
らうと退治あさう。そのら子誕生有。外無神天



伊豆とありてはける。神武天皇十三代世のむに  
 十年のめいぬのこじまれをよ。又蘇我天皇  
 ち。らうあいのひめあつらうじまれをよ。八  
 懐のうけくあてさつら。八懐といふは  
 孝元長寛元年己卯年。天皇十六代清和天皇  
 の御宇なり。うまの宇賀神とあそれあふれ  
 ば。神武天皇后のうとまうせうれあふれ治より  
 けうこうのうらうとまうせうれあふれ治より  
 のうとあそれあふれ治よりあふれ治より  
 よらうあそれあふれ治よりあふれ治より  
 子又同けるはうらうとまうせうれあふれ治より





















ふうちひなれ年とあはしとひさのいんぬ  
 ぐらわいもあつていひはたあもりかういひ  
 ちくしてうへに近代のうらふは徳全教の青  
 海波かきものうけはげ。義後の大指思徳堂  
 のうとて本曾教の鬼けけまげのいれもあ  
 つまげ同とていづれいづれいづれいづれ  
 があひも源が坊とていづれいづれいづれいづれ  
 思とていづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 いくいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 さうといひいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 まよのまといづれいづれいづれいづれいづれいづれ

げう馬あひいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 かんもれまりいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 し。重なるはけいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 ちりりあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 の川流れいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 馬あひいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 らもりいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 らういづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 あういづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 ちもりいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ  
 よりいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ























わらん。古今の事夫物其集は一人法より  
さむまひくつらうらんやのまきと上  
られまきへ凍けありやるやろりしりきん所  
後づけのやま

才北に三帝法軍に法對面之事

明教法軍共かぶとの結してうたかたき  
負まやまきよ腰けりまらうまきほ  
色にあぶるまきまらうまきほ  
まらまらまきまらまらまらまらまら  
鼻ありやまきまらまらまらまらまら  
寅う一天しちうまらまらまらまら

おし率して降竜ちる糸あまの院をよし  
らに寝まあらん打つりまらまらまら  
くまらまらまらまらまらまらまら  
結う。初定わりのまらまらまらまら  
二つあまらまらまらまらまらまら  
らまらまらまらまらまらまらまら  
や。け事かまらまらまらまらまら  
ひ武まらまらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまらまらまら



ふりまゝのい我君の西事ありかゝる能てれ  
まゝのいふのあくうらとれたそのらゆと  
りうき毎らるん何ぞされあややああ  
まゝんくやとられけいしん院まらげおそれ  
さぞいもらん丸ものつどもや悔とてし事  
て。曼ごわりわひしり。西二取の帝是  
丸うらとわれしふあやうい毎いそ。英  
家いともあられて何まゝいんくくをわら  
保元平治事永承久の事世もまゝとらり  
うべざんにかめありとされいさひていひ  
かと所期とたらん。先只とて汝のそとじ

かいにあとの院室おれ後人いさゝか  
まゝのり院宣れむいそ美因と。御二取  
うらうらとらるいおれあらん別勅宣  
此業内あそと所りのそと何とぞいそと  
障竜と障幸を院を道とて沙途に由音  
あそとらるせとらと古寺あんとそ。社  
らひ信と信と物と。しとそとああせ  
の障障とせしやあれたらいそ。そかこれ  
燈立行の志所りれ内外くの世とに松  
ゆりもあつらふとて下くれりのそと  
よ。教とむと志らとてや。そとらららぬ

小豆蔵巻中

三十一











よるおび邪とてふこまけさるる時あはれ  
まれど丸がひはるつとあひあはれ  
つとあひあはれとあはれとあはれとあはれ  
くは横死もあはれとあはれとあはれとあはれ  
いのちまのあはれとあはれとあはれとあはれ  
三帝心魂と乃こころ天よそのまのわらとあはれ  
こころまのあはれとあはれとあはれとあはれ  
里のあはれとあはれとあはれとあはれ  
也。伊勢必麻山の鬼祓とあはれとあはれ  
はつた人の回村丸利仁一方のあはれとあはれ  
必戸隠山の鬼祓とあはれとあはれとあはれ

八幡軍平推指一方のあはれとあはれ  
山の河天童子が例とあはれとあはれ  
付。飛砂の會類悪竜の教源三任教政矢初に  
らぐとあはれとあはれとあはれとあはれ  
よるつとあはれとあはれとあはれとあはれ  
こめつとあはれとあはれとあはれとあはれ  
ち教師真那道の口高とあはれとあはれ  
ち市物とあはれとあはれとあはれとあはれ  
ハ世よあはれとあはれとあはれとあはれ  
物付とあはれとあはれとあはれとあはれ  
あはれとあはれとあはれとあはれ

小夜嵐











安達公之今なほ徳川の文藝境比の中に  
八國津ありとも。多小ありぬ斗略ありとも。此  
は公之小ありして。徳川の公鬼のたぐせりなり。わ

才元又 軍勢賦

波のよりの田村の軍利にとも。白濁のきりけなり。お  
呪云書し。公之ととも。あけのうぶと八十三万八  
千餘騎と。率し。高麗の山より。西の川  
より。乃とも。業の松系は。深とも。公。横津守頼光  
々。公之のより。のとも。毘沙門小より。とも。比。危が  
しら。八ふとも。成之。電。深乃。弓。持。天乃。速。日。征。矢  
と。真。安。徳。が。お。公。二。尺。七。寸。八。太。刀。を。た。お。動。業。を。

し。馬。り。お。鞍。と。も。也。ゆ。り。の。り。志。馬。が。鞍。四  
流。後。も。粒。資。だ。の。村。實。國。丹。は。る。保。昌。貞。光。未。茂  
公。持。一人。未。名。法。法。と。仲。政。と。初。り。て。電。之。れ。若。ふ  
入。十。七。万。六。千。余。騎。を。又。れ。而。西。の。も。り。い。し。は。流。公  
と。公。源。三。位。も。り。ま。も。も。婿。子。太。馬。改。ま。る。け。お。仲。徳  
兼。徳。宗。頼。朝。の。肥。と。さ。た。う。て。の。公。甲。に。十。二。万。二  
千。余。騎。の。貝。山。と。も。徳。の。味。と。た。て。高。王。八。海。那  
南。口。八。濱。門。と。目。下。小。ふ。る。あり。ひ。之。ら。わ。丸。而。別。友  
我。信。が。も。り。公。之。の。先。く。舉。と。落。え。ん。と。く。を。公。の  
さ。つ。へ。公。本。の。と。而。重。が。め。の。公。而。音。法。は。公  
と。ら。我。盛。徳。田。の。友。を。盛。政。と。ら。危。十。而。兼。房。後









水石庵者















笑も道にこれけるかよふ比獄のはやちり  
 見せいかく痛まらうかあうか女とくこれ  
 女獄卒のよらなりまうくかかると  
 死すとしてすぐはあう入席の迹てあり  
 けりうききめけも今ハのうき姿ハ実  
 けりうききめけも今ハのうき姿ハ実  
 又もききめけも今ハのうき姿ハ実  
 女獄卒のよらなりまうくかかると  
 死すとしてすぐはあう入席の迹てあり  
 けりうききめけも今ハのうき姿ハ実  
 又もききめけも今ハのうき姿ハ実  
 女獄卒のよらなりまうくかかると  
 死すとしてすぐはあう入席の迹てあり  
 けりうききめけも今ハのうき姿ハ実

げなり見せいかく痛まらうかあうか女とくこれ  
 のぞけごしあう痛まらうかあうか女とくこれ  
 されそしあう痛まらうかあうか女とくこれ  
 けりうききめけも今ハのうき姿ハ実  
 又もききめけも今ハのうき姿ハ実  
 女獄卒のよらなりまうくかかると  
 死すとしてすぐはあう入席の迹てあり  
 けりうききめけも今ハのうき姿ハ実  
 又もききめけも今ハのうき姿ハ実  
 女獄卒のよらなりまうくかかると  
 死すとしてすぐはあう入席の迹てあり  
 けりうききめけも今ハのうき姿ハ実







